

(別紙様式 3) **令和 6 年度 学校評価 学校関係者評価報告**

学校名〔 京丹後市立大宮中学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)					
(大宮学園教育目標) 「自他を尊重し、自ら学ぶ子どもの育成」 (大宮中学校重点目標) 「ふるさとを愛し、夢や希望をもって未来を切り拓く、心豊かでたくましい生徒の育成」 ～人権尊重を基盤に、個をほめて、集団で認めて、他者(集団)とつなぐ～ (実践上の視点) ○生徒一人一人が「自己指導力」を身に付けるための支援(あらゆる教育活動の中で) ・「安全・安心な風土」の醸成 ・「自己存在感」を育てる ・「共感的な人間関係」を育てる ・「自己決定の場」の提供 ○「居場所づくり」と「絆づくり」 ・自己存在感が感じられる場所作り(教職員) ・主体的・共同的な活動を通して「絆」を紡いでいく(生徒自身)		○大宮学園「授業づくりの視点8」「言語活用カリキュラム」「人権教育カリキュラム」の活用による授業改善に取り組み、生徒、および保護者のアンケート項目「中学校で学力が上がったと思う。」の肯定的回答が向上した。 ○ICTの利活用や校内・校外の各種授業研究などを通じた授業の工夫・改善により、アンケート項目「工夫した方法で理解しやすい授業」「わかりやすい授業」などの授業に係る項目で生徒の9割以上が肯定的な評価であった。 ○人権教育を基盤にした生徒指導・学習指導等により。「「他者の心を大切にし、思いやりがある」と9割以上の生徒及び保護者が評価している。 △キャリア教育の推進や自ら計画を立てて学習するなど自主的・自発的な学習の習慣化について、自己調整力に着目しながら取組を進める。 △生徒指導提要等の趣旨を十分に理解したうえで魅力ある学校づくりに努めるとともに、不登校の未然防止や自らの進路を主体的にとらえた社会的自立に向けた支援を行う。		○一貫教育を通じた「グローバル人材」の育成 ・すべての人権を尊重することのできる生徒の育成 ・多様な他者とつながり、ともに協働しながら学びを深め成長する生徒の育成 ○生徒指導の充実(不登校の未然防止) ・生徒が自己指導力を身に付けるための支援 ・生徒が安心でき、自己存在感や充実感を感じられる場所を作り出すこと ・生徒が主体的に取り組む共同的な活動を設定すること ○確かな学力の育成 ・小中で連携した「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業研究と授業改善 ・丹後学におけるICTの更なる活用や地域の外部人材の活用等を通じた「探究的な学び」の研究 ○信頼される学校づくり ・家庭及び地域との連携推進と外部関係機関との連携強化 ・「パートナー」としての学園学校運営協議会との協働					
評価項目		重点目標		具体的方策		成果と課題(自己評価)		学校関係者評価	
学校教育計画及び各学園の重点、保幼小中一貫教育の重点として	教育課程	○大宮学園一貫教育の重点「人権教育」と「ことばの力」の育成を目指す。		・大宮学園一貫教育の「人権教育カリキュラム」を活用して人権意識の醸成、また「言語活用カリキュラム」を活用して確かな学力の育成に取り組む。		○急速に変化し続ける今後の社会を生き抜くために必要な学力について、「なぜ学ぶのか」、また「学び方を学ぶ」など、日々の授業と並行して学びの意義や必要性について指導を行い、実際の授業では単元指導計画における工夫改善を施している。これらのことは保護者へも様々な機会を通じて発信している。		○学び方や授業など「観」が変化することを生徒や保護者へ伝えることもアンケート結果の肯定的評価の向上につながっている。	
	学習指導	①確かな学力の育成		・大宮学園「授業づくりの視点9」をもとに、生徒が他者との関わりの中で学びの主人公として多くの力が身に付けられるよう学園、校内の授業研究を通して、魅力ある授業を作り上げる取組を行う。		○「授業が分かりやすい」「いろいろと工夫した方法で理解しやすい」「丁寧に教えてくれる」などのアンケート結果において、生徒で3P以上上がり95%、保護者も2P以上上がり、初めて90%を上回る肯定的評価となった。		△失敗してもあきらめず何度も挑戦する生徒の育成が大切。	
		・「ことばの力」「思いやる心」		・市の「丹後学モデルカリキュラム作成研究協力校」指定を活用し、学園教育の基盤である「人権教育」の更なる充実をはじめ、ICTの更なる効果的な活用や地域人材の活用を通じた探究的な学びについての研究を進める。		△今後必要となる学力(認知・非認知)、及び学力向上のための具体的取組について、機会を設定する中で継続して丁寧に説明するとともに更なる工夫改善に取り組む。			
		「つながる力」を育成		・各種調査やアンケートの結果分析から指導・支援策を検討					
		・「ICTの更なる効果的活用」							
		・「探究的な学び」「自己調整力」の実践研究							
		②人権意識の育成							
		・授業、特別活動における「話し合い活動の充実							

生徒指導	①生徒指導提要に基づく不登校の未然防止と早期対応 ②組織としてのいじめ把握と未然防止を徹底 ③学習指導との連動	・教職員一人ひとりが人権尊重の基盤に立ち、すべての生徒を大切にする指導・支援を、家庭・地域とともに協働して行う教育活動を学校組織として行う。 ・生徒指導提要の再確認により、生徒との良好な関係構築を目指し、その中から一人一人の実態を的確に把握し、指導・支援につなげるスタイルの実践強化を学習指導でも図る。 ・実態把握と指導（記録）確認のための各種会議の定例化継続、あわせて、校内人材の有効活用、外部の関係機関等との連携による総合生徒支援による生徒指導に取り組む。	○生徒指導部会と教育相談部会を毎週実施する中で、今年度は、特に個々のケースに係る方針立てと具体的な支援等をＳＣなど専門家の意見も参考にしながら確認し、タイムリーな指導・支援につなげることができている。 ○「大宮中の教育は信頼できる」のアンケートで、生徒 97.6%、保護者 90%の肯定的評価であった。 ○△校内別室を活用する中で好転している不登校傾向等生徒がいる。今後更なる活用方策を探る。 △ＳＮＳに係る事象については、保護者と学校がそれぞれ取り組むべき指導と支援を整理、理解した上で連携のあり方について協議していく。	○別室の活用は良い。 ○△今後も生徒の居場所を作り、登校できなくても学校や社会とのつながりが途切れないように支援していくことが必要。
健康（体育）・安全	①安全教育、健康教育、及び防災教育の充実	・急速に進化、普及する携帯端末やＳＮＳに係る取扱いについて、非行防止教室やネットモラル教育、さらには薬物乱用防止教室を活用しつつ、人権学習や性の学習等とも連動させ、年間を通して総合的な指導・支援を組み立てる。 ・地震等の自然災害やＪアラート、交通事故や食物アレルギーなどへの丁寧で確実な対応を危機管理の面からも行う。	○情報モラルに係る指導を非行防止教室や人権教育と絡め計画的に実施し、便利さと危険性について年間を通じて継続的に指導に取り組んだ。 △携帯端末の校内への持ち込み事案が増加している。保護者と生徒、学校とで今後のＳＮＳに係る利活用について検討していく機会をＰＴＡ等とも連携する中で設定していく。	○△ＩＣＴの普及により直接話すコミュニケーションの大切さや必要性が見直されている。継続指導を。
危機管理	①人権尊重を基盤とした指導・支援 ②コンプライアンス遵守の徹底	・定期的な校内研修により、生徒や保護者をはじめ、すべての人に対する人権尊重、及び人としてのコンプライアンス遵守を徹底する。 ・人権教育加配の教職員支援機構による人権教育研修や丹後人権教育研究会での実践発表を、校内等における人権教育の更なる充実の機会ととらえ活用する。 ・すべての教育活動に対して、リスクマネジメントとセットにクライシスマネジメントを行う。	○人権教育を全教育活動の基盤とし、人権学習としての直接学習とともに日常の中にあるすべての人権について意識して感じ考えることを、人権だより等の発行を通じて行った。 ○個別的な視点に係る「障がい」について、外部講師による体験型授業を活用し学びが深まった。 ○「他者の心を大切にし、思いやりがある」のアンケート結果で95%の生徒が肯定的評価であった。 △地域と共にできる人権に係る取組を検討する。	○△今後も他者を意識する活動の中で、人権をはじめ人とのつながりを考える機会を設定することが必要である。
開かれた学校づくり	①学校（学園）運営協議会、各関係機関との連携・協働 ②地域の教育資源の積極的な教育活動への有効活用	・小中一貫教育コーディネーター及び地域コーディネーターと連携し、パートナーとしての学園学校運営協議会との協働を進め、地域とともにある学校・学園をさらに目指す。 ・関係諸機関との丁寧な情報共有により、生徒及びその家庭への支援等を総合的に組み立てる。	○「教育方針は期待に応えるもの」90.4%、「家庭や地域に開かれている」80.7%、「行事など気楽に訪問できる」86.7%と肯定的評価を得ている。 ○総合的な学習の時間において、地域の事業所との連携した学びに取り組むことができ、次年度以降の学びの充実につなげることができた。 △地域の方々と共に探究する学習内容を、ＰＴＡや学校運営協議会等との連携から検討したい。	○探究的な学びの充実に係る地域の人材活用は良い。継続して更なる充実を目指してほしい。
次年度に向けた改善の方向性	1 人権教育をすべての教育活動の中に位置付け、教育実践をさらに充実・推進させていくこと。 2 総合的な学習の時間における「探究的な学び」の手法について、各教科でも実践していくための教科等横断的な学びの研究を進める。 3 ＰＴＡや大宮学園学校運営協議会、また学校評議員会をはじめとする地域の各関係機関と共にある学校・学園を目指すため、積極的に連携・協働を行う。			